

市内景気動向調査結果

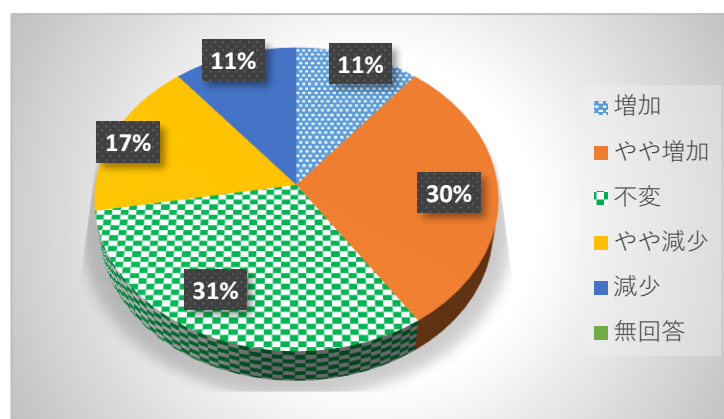
この調査は、第4四半期（令和7年1月から3月）と前年同期間（3ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
101	29	15	—	19	26	12

※その他は、回答数が少なかった運輸業、飲食業、不動産業、

1. 売上高はどう変化したか。

増加	11
やや増加	30
不変	32
やや減少	17
減少	11
無回答	0
合計	101

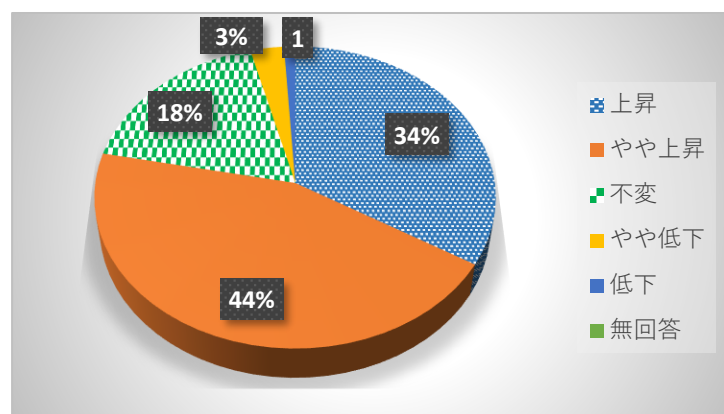


【コメント】

- 増加・やや増加が40.6%、不変が31.7%、やや減少・減少が27.7%であった。前年同期では、増加・やや増加が42.3%、不変が32.4%、やや減少・減少が25.3%であったので、ほぼ同様の状況である。
- 増加・やや増加の業種別割合は、製造業が53.3%、建設業が37.9%、サービス業が34.6%、卸小売業が31.6%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、卸小売業が42.1%、建設業が34.5%、製造業が33.3%、サービス業が15.4%であった。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	34
やや上昇	45
不変	18
やや低下	3
低下	1
無回答	0
合計	101

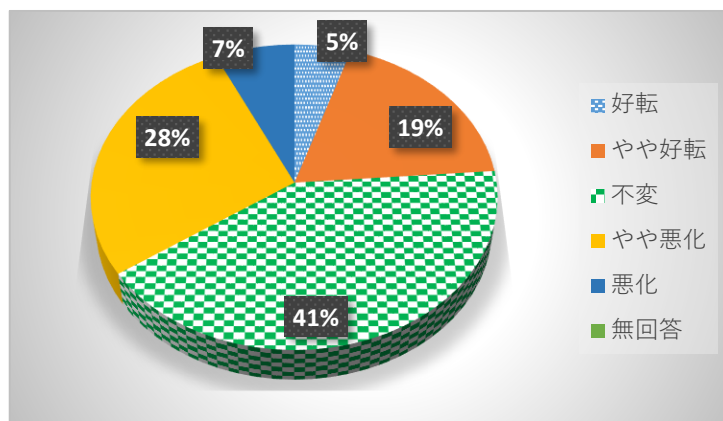


【コメント】

- 上昇・やや上昇が78.2%、不変が17.8%、やや低下・低下が4.0%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が78.9%、不変が18.3%、やや減少・減少が2.8%であった。
- 上昇・やや上昇の業種別割合は、卸小売業が100%、サービス業が80.8%、製造業が80.0%、建設業が68.9%であった。
- 依然として高い水準で、資材や原料、商品価格の高騰が続いている。

3. 採算について

好転	5
やや好転	19
不変	42
やや悪化	28
悪化	7
無回答	0
合計	101

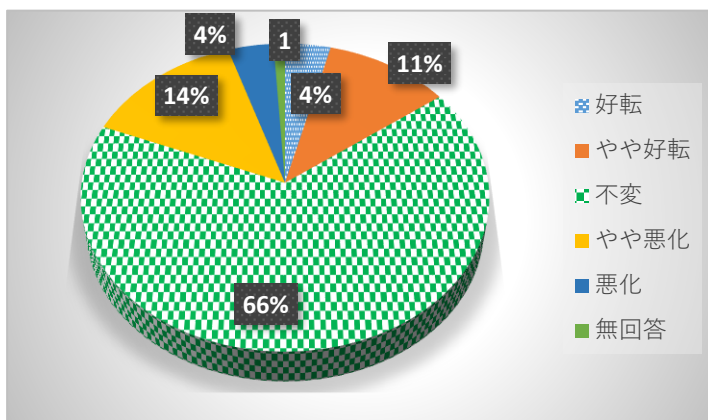


【コメント】

- 好転・やや好転が23.8%、不変が41.6%、やや悪化・悪化が34.6%であった。前年同期の好転・やや好転が21.2%、不変が39.4%、やや悪化・悪化が38.5%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が57.9%、建設業が34.5%、製造業が33.3%、サービス業が26.9%となっている。
- 前年同月比では、ほとんど同様の状況となっている。

4. 資金繰りについて

好転	4
やや好転	11
不変	67
やや悪化	14
悪化	4
無回答	1
合計	101

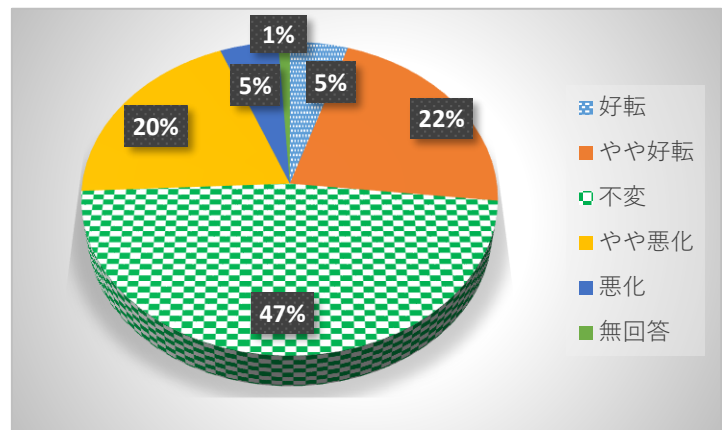


【コメント】

- 好転・やや好転は14.9%、不変が66.3%、やや悪化・悪化が17.8%であった。前年同期の好転・やや好転が9.9%、不変が70.4%、やや悪化・悪化が19.7%であった。
- 資金繰り悪化の業種割合では、卸小売業が36.8%、製造業が20.0%、サービス業が15.4%、建設業が10.3%であった。
- 資金繰りは、若干改善しているが原材料価格や仕入価格が上昇しているため今後悪化することが懸念される。

5. 業況について

好転	5
やや好転	22
不変	48
やや悪化	20
悪化	5
無回答	1
合計	101

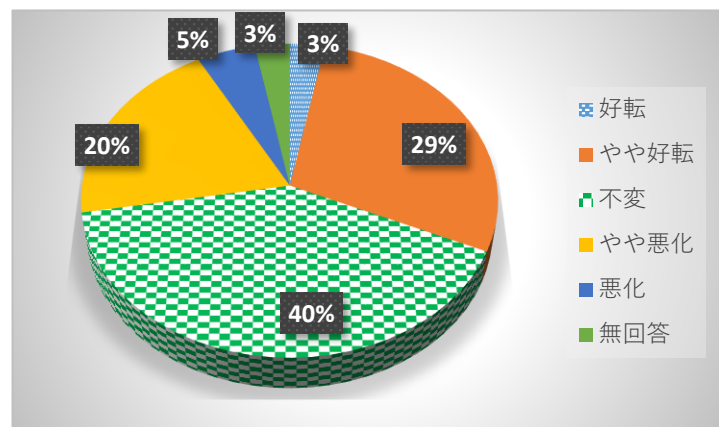


【コメント】

- 好転・やや好転は26.7%、不変が47.5%、やや悪化・悪化が24.8%であった。前年同期は、好転・やや好転が26.8%、不変が43.7%、やや悪化・悪化が29.5%であった。
- 業況好転の割合が高い業種は、製造業が40.0%、建設業が24.1%であった。業況悪化の割合が高い業種では、卸小売業が47.4%、建設業が24.1%、サービス業が15.4%であった。
- 良い悪いの二極化が続いている状況にある。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	3
やや好転	29
不変	41
やや悪化	20
悪化	5
無回答	3
合計	101



【コメント】

- 好転・やや好転が31.7%、不変が40.6%、やや悪化・悪化が24.8%で、前年同期では、好転・やや好転が26.8%、不変が38.0%、やや悪化・悪化が35.2%であった。
- 物価高が継続していることから、個人消費の低迷が見られる。また人手不足や人件費の上昇が経営を圧迫することが予想される。

■回答事業所からのコメント

【建設業】

- 期間中は役所受注物件2件の竣工があり良かった。今後については、市の物件が殆どなく極めて厳しい見込の中、賃金アップの検討も含め苦渋の選択を迫られる状況です。
- 想像力と発想の転換
- 工事期間が短く、移動が増えて経費は増えるが売上が下がる状況だった。
- 物価高のため、色々な物が高くなり、業況は先が読めない状態です。
- 当期（1～3月）工事はあったが、降雪不足による除雪、排雪業務が減少し採算が悪

化。

- 冬期のため。
- 工事の発注がなかった。
- 事業投資と売上の減少。
- 資材高騰のため、工事等の見直しで全体に低迷して、この先の見通しも厳しい状態が続くと思われる。
- 受注高の変化はありません。
- 当社、4月からの事業開始となります。注文は入っております。
- 顧客売上高が低迷しているため。
- 令和6年12月から令和7年3月まで、仕事はほとんどしていません。

【製造業】

- 対前年では、大口案件の減少により売上、利益ともに減少。今後は、雪解けとともに廃棄物の量が増える傾向にあり。
- 委託先からの発注（受注）数量は変化がないものの、受注受け単価（価格）値上げ交渉を行い、各メーカーからの受け価格を値上げできた。（引き続き値上げ交渉を未実施メーカーと行っていく）。原材料費、工場エネルギーおよび人件費等の高騰する分の負担軽減となり売上高が伸び増収が見込まれる。
- 除雪車両の整備業務の割合が高く、冬場の降雪量に左右されますが、昨シーズンは年間通して仕事の確保ができたため、概ね順調な年度になっています。
- トランプ大統領と選挙の動向によると思います。
- 令和7年4月から6月の3ヵ月は、国策の補助金制度の継続で期待できる。
- 弊社へ正月用品の販売ですが、9割以上が輸入品なので為替の影響が大きいです。ここ数年円安高止まり傾向なので利益を直撃します。為替が円安になり始めた2022年年末に各取引先の原価／売価の見直しをしました。その後は各社の導入計画を返品がなくなるよう厳しく見直し、今までの在庫を消化しながら仕入を少なくして対応しています。今後も為替を注視して対応しなければなりません。
- 資材・原材料高騰分をある程度、価格に転嫁できている。
- 業況は主力商品の販売が思ったより早くピークアウトしたため低調な推移であった。今後は一部の製品商品の値上げや取引先が弊社製品でキャンペーンを実施するため、多少好転を見込んでいる。
- 原材料の高騰。

【運輸業】

- 乗務員確保が最優先であり、人件費の上昇が見込まれるため。
- 燃料高が難。

【卸小売業】

- 案件が増加する対策をしている。チラシや勉強会を実施。
- 官公庁からの受注が増えたため。
- 土壌凍結による農産物の収量減および品質保持のため。また有機質肥料の効能が理解され購入者が増えつつあることから、今後の経営は好転すると判断されます。
- 売上は、ちょっと下降気味ではありますが、カード支払いの比率が高くなるにつれ資金繰りが厳しくなっているように思います。
- 気候の変化で、今年は生産と出荷の変動が大きく、仕入価格の高値が続き大変です。

【サービス業】

- 公共工事の影響が大きく5月GW明けまで動きが鈍いため。
- 仕入単価が増加したものの、利用客は増加している。今後も顧客を増やす見込のため、好転していくと予想している。
- 売上は増加しているが仕入も増加。仕入価格の上昇が止まらないため粗利がない。現在の料金では営業していけないため、値上げ告知最中です。
- 当店のお客様は7割～8割が車で来店している。エスコンでの試合が始まり、市営駐車場に当店のお客様が駐車できない。店の駐車場だけでは足りないため、多少売

上減少になると予想される。

- 物価上昇分を単価で補えていない。周囲の環境の変化を多少受け始めている。
- 売上は大幅に減少した。仕入単価は上昇。売上が大幅に減少したため採算性は悪化した。
- 売上自体上がっても仕入れ額の上昇もあるため、純利益としての増額には繋がりにくい。
- 1月から2月にかけて改装オープンのため休業していたので、売上減、支出増であった。とにかく今後3か月間とそれ以降は、ファイターズの試合日に市営駐車場が満車になるのをどうにかしてほしい。そのせいでビジネスチャンスを失っているケースもある。
- 弊社が運営しているのはB型就労支援事業所（福祉事業）で、仕入等がないので景気の影響を受けづらいです。
- 納税負担。人材不足（エスコンとの取り合い）による時給UP。
- 全体的な建設需要の減少と物価高の継続。
- ゴルフ練習場は、土日祝の来場者が多いが天候が悪いと来場者が激減する。天候次第の売上となるので大変。バッティングスタジアムはエスコンフィールドの効果もあり、来場者が増え、売上も増加。

【その他】

- 土地の価格が上がりすぎ買い控えが起きている。建築工事の値上がり（資材、人件費等）で買えない状況がある。
- 出店して1年弱が経過し、軌道に乗りつつある状況です。出店をした認知や、我々も市内の動向や現状を把握できたことも要因ではないかと思います。
- 売上は変わっていないが、材料費、灯油代、人件費のアップにより費用が増えており、利益は下がっている感じがする。不動産業界自体は冷え込んできている。当社は管理もあるため収入の大幅な減少にはなっていないが、経費削減等の措置を考える必要はある。
- 団体での利用が減り、客単価が下がっています。原価の高騰による利益圧迫。売上が上がっているが利益には繋がっていません。
- 地価は低下傾向にありますが、その他建築費やリフォーム代など全てにおいて値上げ傾向にあるため。高価な不動産を購入できる人が限られるので、世の中が良くなならない限り、好転する兆しが見えない状況です。
- 北広島市内の不動産売買状況は高値状態が続いているため、動きがあまり良くない状況。今後も不安定な状況が続くと予想されます。